

## ● 昨年浮上走行に成功

かつて「二十一世紀の超特急」の実験で脚光を浴びた日向市美々津の鉄道総合技術研究所・宮崎リニア実験線が今、未来の超高速列車開発で再び注目を集めている。「リニアモーターカー」から「エアロトトレイン」へ。地元住民が夢の実現にかけた地域活性化の思いも確実に引き継がれている。

日向市美々津に、当時の国鉄が超電導技術を駆使したりニアモーターカーの実験センターを開設したのは一九七七（昭和五十二）年四月。二年後に美々津―都農町間七<sup>キ</sup>に実験線が延長され、時速五百<sup>キ</sup>を目標した本格的実験が始まった。以後、同実験線では日本の技術水準の高さを世界に示し、歴史に残る高速記録を刻むことになる。

実験線が七<sup>キ</sup>に延長されて四カ月後の七九（同五十四）年十二月には、早くも無人走行で時

速五百十七<sup>キ</sup>の世界記録を達成。八七（同六十二）年二月には有人走行で四百<sup>キ</sup>を突破、九五（平成七）年一月、有人による国内最高の四百十<sup>キ</sup>を記録した。

リニア実験が実用化に向けて進むにつれ、多くの先進各国の政府関係者や科学者、一般の人が視察、見物に訪れた。実験期間の十九年間で見物客は百万人を超え、八〇年代半ばにはリニアブームも起こった。

日向市もリニア実験を地域おこしに活用。観光パンフレットの中に取り上げたり、実験線の中間点に当たる東都農に、走行実験が見られる展望台を設置したりした。リニアの雄姿を見ようと、展望台を見物客が埋める光景もたびたび見られた。

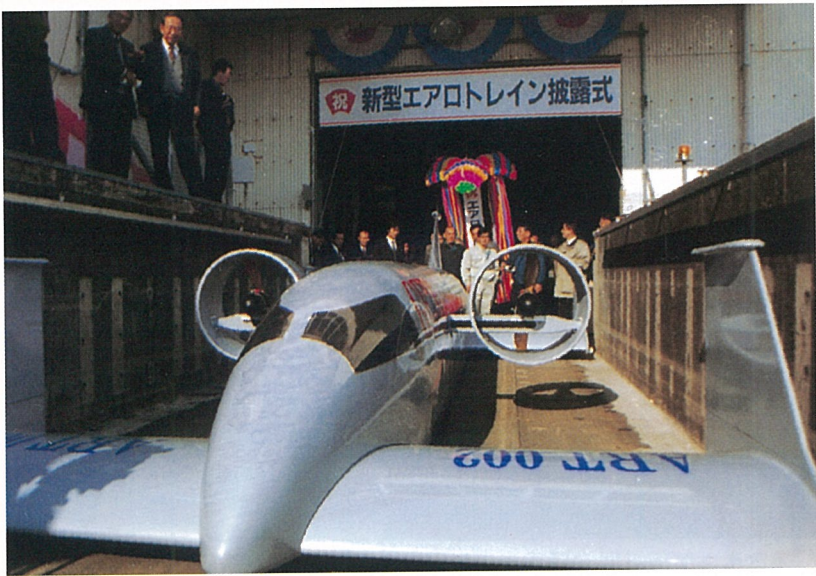
世界に向けて、日本の技術を発信し続けた日向市でのリニア走行実験に終止符が打たれたの

は、九六（同八）年十月。実験線延長、トンネル内、積雪を想定した走行などの必要から、実験は山梨実験センター（山梨県都留市）に引き継がれた。

日向市からリニアが姿を消したあと、登場してきたのが浮上式超高速列車「エアロトトレイン」。九九（同十二）年六月、東北大学流体力学研究所の小浜泰昭教授の研究グループが実験を開始した。

エアロトトレインは、翼の浮揚力とプロペラの推進力で地表すれすれを浮上走行、未来の超高速列車を目指す。二〇〇二（同十四）年一月には新型実験車両を導入、すでに同車両での浮上走行に成功している。日向市、都農町ではリニアに続く町づくりの起爆剤として期待している。

甲斐 勝



エアロトトレインの新型実験車両。浮上走行にも成功、夢の実現を目指す